

2、玉林山 浄蓮寺 平田市本庄町一三五番地

宗 派 臨濟宗妙心寺派

本 尊 無量寿如来

現住職 多久和史樹

本願及び開創年月は不詳。

寺伝では、天台宗の末寺と推定されているが、往古は、何宗であったか明らかではない。『延文年間（一二三五六〜一三六〇）現安来市清井町雲樹寺開山三光國師この地を巡錫し、寺の頽廢を扶起した。よって、当山の開山となす。』と当山の古文書にある。雲陽誌によると、開基は、雲樹寺大仙和尚だとしている。

中古、毛利氏発向の節、何の因縁によつてか、伽藍を悉く焼却する。その後は、雨露霜雪を漸くにして凌ぐ、仮寺であったが、元禄年間（一六八八〜一七〇三）梵海音公首座なる平僧によつて再建される。これより以降暫く平僧時代が続くが、いずれも病弱な住僧等が続き、荒廢期に入る。元禄末期より延享初頭（一七四四）にかけて、雲樹寺四世通源智門禪師が入山再興をした。よつて禪師を中興の祖として、尊崇している。然るに、文政九年



（一八二六）三月十四日、続く天保十四年（一八四三）十二月二十日と、再度の火災により、堂宇、末舎等全焼した。時の住職禾山和尚、一念発起し、現本庄町屋号角垣の旧宅を譲り受け、本堂として改築再建した。大正末期、次第に老朽化し始めたこの本堂を、先住恭道和尚は庫裡として修築、あらためて瓦葺きの本堂を再建、これに伴い、境内の整備造園等大事業を成し遂げた。更に現住義堯和尚に至り、本堂、庫裡の屋根替修築。観音堂、鐘楼堂再建。客殿新築等々をなし、禅刹としての威容が整えられた。

別堂その他

● 観音堂 本尊 聖観世音菩薩

盾縫第二十番観音霊場詠歌

誰もみな参るその身は

はちす寺

濁に染まぬ

心なるらん

● 達磨大師堂

すこやか達磨

水子観世音菩薩

● 盾縫第十五番 弘法大師

● 鎮守堂 祭神 秋葉大権現

● 地藏菩薩 石像 三体



涅槃図（文政十年以前の作）